

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600424		
法人名	有限会社 カスタネット		
事業所名	グループホーム カスタネット 2階 秋桜		
所在地	京都市左京区岩倉花園町401番地		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	平成25年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2670600424-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当該ホームは、利用者本位の生活や理念を基本として支援に努めています。
 日々の生活の中にレクリエーションを取り入れ、身体能力の衰えを最小限におさえられる様、散歩に積極的に出掛けています。
 また、利用者が役割を持って生活できる様、役割分担表を作り、掃除や料理、洗濯などに取り組んでいます。今までの生活歴を大切に、その人らしい生活が送れる様、温かく支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、その人らしく普通の暮らしができる様に、理念を基にケアしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、神社の祭や地藏盆等に参加している。 また、利用者様のご家族による紙芝居や、月2回の音楽療法、地域の先生の生け花教室を実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校で、子供達に対して認知症の勉強会が行われた際、私達も勉強会に参加し、子供達に認知症についての理解を促したりしている。キャラバンサポート養成の寸劇を手伝ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様の日々の生活や行事等を出席者に報告し、意見交換を行い、より良い運営を目指している。 また、当ホームにて実施する避難訓練等にも参加して頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に、運営推進会議に出席して頂く事により、様々な情報を提供して頂いている。 また、随時京都市主催の事業者連絡会に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ストレスを感じず、ゆったりとした暮らしをして頂く事を基本方針としているので、利用者様の意思を尊重し行動できる様に、玄関やエレベーター等の鍵を掛けない様にしている。 開放している分、職員が利用者様一人一人の行動を把握する様に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行われるカンファレンス後の話し合いや、施設内研修により、高齢者虐待について学び、職員一人一人が自覚を持って行動する様に努めている。		

グループホーム カスタネット (2階秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないが、過去の事例から学んだりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様及びご家族様に重要事項説明を十分に行い、ご理解頂いた上で契約の締結をして頂く様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本位を基本としているので、常に利用者の意見に耳を傾け、ご家族様が来所された際には、ご希望やご意見を伺う機会を設け、日常生活に反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で発生する連絡事項は連絡ノートを用い職員全員が必ず閲覧する様にしている。全員が閲覧した事を確認する為に署名をするようにしている。 また、カンファレンスには、代表者や管理者も参加し意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の意見や発想を尊重し、希望休日が取れる様、勤務体制を工夫している。 職員同士のコミュニケーションの場として、年2回食事会を行っている。 職員が向上心を持ち職務に就ける様、チームワークの徹底を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・非常勤共に内外研修に参加し、カンファレンス等で発表している。 研修に参加していない職員にも内容を把握してもらおう様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入している。 他施設に職員を1名交換し研修を行ったり、見学や訪問をさせてもらっている(本年度も交換研修予定あり)。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自分の要望をはっきり発言される方もいる。 時間を取ってご本人の話を聞いて、信頼関係を築ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅生活の暮らしを聞きながら、どんなことで迷いや不安があるのかを知る。 その後も情報を共有して関係を深めていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々に応じた外部からのリハビリ・マッサージ師の訪問治療を受けている利用者もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除、洗濯干しなどを一緒に行うことによって暮らしを共にする者同士支え合い、話し合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加して頂いたり、普段の様子を伝えるなど、常にコミュニケーションをとりながら共に支え合う関係ができています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	来客者を居室へ案内し、一緒に過ごしていただいている。 また、植物園によく行っていたので、時々スタッフと出掛けたり、知人と外出して食事をしている方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーションなどの参加を通じ利用者同士の交流の場を設けている。テーブル・座席の配置を見直したこともあり、皆が気持ち良く過ごせる様努めている。		

グループホーム カスタネット (2階秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院入院の為退所された方がいらしたが、お見舞いに行き、現状をご家族から伺ったり、ご本人様とも会話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生け花が得意な方、習字が得意な方、歌が得意な方等々、個々に合わせ行っている。困難な場合もスタッフが寄り添い支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の訪問時に出来る限り話し、ご本人の生きてこられた過程を話してもらえる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングで一人一人の心身の状態を把握し、バイタルチェック、健康管理を記録し変化にいち早く気付ける様心がけ、気が付いたことがあれば即対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や電話でコミュニケーションをとり、介護計画に関する意見を聞き、職員で話し合い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や健康管理表を毎日記入。申し送りなどで情報を共有しケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	天気が良ければ、散歩や買物に出掛ける様心がけている。 ドライブを兼ね、道の駅や神社、公園等へ出掛けている。		

グループホーム カスタネット (2階秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長が運営推進委員会議に参加していることで地域の情報が得られやすく、避難訓練への協力も得られやすい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週金曜日に協力医の往診があり、毎週木曜日には訪問看護にて看護師による健康チェックを受けており、24時間緊急時にも対応していただいている。 また、入居前のかかりつけ医をそのまま継続出来ることを説明している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護の中で利用者の異変や新しい情報から緊急を要すると判断した場合は、職員間で話し合い訪問看護師に電話で相談後に訪問してもらったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたケースでは、定期的にご家族へ連絡し現状を確認したり、お見舞いに伺った。 今後の様子について病院関係者に相談するなどの対応をとった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際には、主治医より説明を受けた上でご家族の希望を聴き、職員も含め今後の方針を決める。 その後も利用者の状態変化に合わせ、主治医、家族と相談しながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的なカンファレンスの中で事故発生時の対応を職員間で話し合い、事例検討を踏まえてその発生の予防や発生時の対応について話し合い取り決めを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施、そのうち1回は消防員に来て頂き、避難訓練を行っている。 また、職員の連絡体制を整え災害時に速やかに動ける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する言葉遣いには十分に気を配っている。 特にプライバシーに関わる話では必要時インシヤルを使用し職員間で伝達する等の工夫を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室の掃除は自分で行いたいとの希望があれば、その様に希望を受け入れたり、仏壇のお供えを用意させてもらったりと可能な限り希望を伺い、こちらの提案についても考えてもらう機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日であってもご本人が希望されない場合や拒否が強い場合は無理をせずに見守る。外出等を拒んだ際もご本人の希望を尊重する様に努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に髪を整えたり、着衣の乱れを直す等、十分注意を払っている。 また、2ヶ月に1回出張理美容でカットや毛染めも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むきを一緒にしたり、盛り付けをしたり 食事は勿論作ることも楽しんで頂いている。 また、後片付けを同じ人に偏らない様声掛けを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な体重測定に加え、食事摂取量と一日の水分摂取量を記録し、不足分を補ったり過剰分を控えたりして気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所へ誘導し口腔ケアの支援を行っている。 口腔内に異常を発見した場合は、主治医に報告している。		

グループホーム カスタネット (2階秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんど自立している。 2名の方は、排泄チェック表を元に声掛けトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康管理表に飲食物の摂取量を記入、運動も含め、最終的には薬にて対応している。 便秘のひどい方もおり、時には腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人、ゆったりと楽しめている。 拒否されても時間をおき声をかけ、時にはスタッフチェンジをし声かけすると入ってくれることもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は布団干し、シャツは定期的に洗濯している。 体調が優れない方は臥床してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時、医師により薬の説明を受け、服薬変更のあった場合は連絡ノートに記入し職員全員が理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝い表に沿い、曜日毎に役割分担している。 生け花、音楽療法、習字、買物等を行い、気分転換できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、神社、公園、季節の行事などに 出掛けている。和菓子店で抹茶を飲み、ゆっくりと過ごす機会もあった。 ご家族と外出し、外食し帰られる方もいる。 ○グループホームオリンピック 10月10日 ○お芋掘り 10月22日		

グループホーム カスタネット (2階秋桜)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出掛けた際は、出来る限り購入希望のあった商品を購入出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡を取りたいと希望があれば電話を掛けるのを支援したり、封筒や葉書に住所を書くのを手伝ったり、切手を貼りポストへ投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気や天候に応じ、エアコン等の空調管理を行っている。 浴室では、寒くなってくると脱衣所との温度差が少なくなる様に、脱衣所に暖房を入れたりして配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールにソファを設置しており、特に廊下に設置しているソファでは、ベランダからの外の景色を楽しまれている様子。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で過ごされていた頃と同じ様に、安心して生活出来る様にと、ご家族と相談したり、なじみの家具、仏壇での暮らしをしてもらえる様心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室前に表札を出し、認識しやすい様な工夫や、各居室前に表札を掲げ間違えない様な工夫をして、また必要な箇所には手すりを設け安全面に配慮している。		